

# 平成二十八年度 長崎県立西彼杵高等学校 第六十九回入学式式辞

明るい春の陽射しに、角力灘の海の青が一段と輝いています。今日のこの佳き日に、西海市長田中隆一様、同窓会会長 川添昇様をはじめ、多数の御来賓の御臨席をあおぎ、ここに、長崎県立西彼杵高等学校第六十九回入学式を挙行できますことを大変光栄に存じます。

ただいま、平成二八年度入学生六十一名の入学を許可いたしました。

新入生のみなさん、入学おめでとうございます！教職員、在校生一同、みなさんを心より歓迎いたします。

また、保護者の皆様におかれましては、九年間の義務教育課程を終了し、本日でたく高等学校への入学を迎えたお子様の姿を御覧になり、感慨も一入であろうと拝察いたします。心よりお祝いを申し上げます。

私ども教職員一同、かけがえのないお子様をお預かりする責任の重さをかみしめ、皆様の御期待に応えられますよう全力を尽くして参る所存です。高校生とはいえ子供たちの健やかな成長のためには、保護者の皆様のお力添えが、どうしても必要でございます。今後ますますの本校の教育活動への御支援と御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

さて、入学生の皆さん、本校は、終戦翌年の昭和二十一年、長崎県最後の旧制中学、長崎県立西彼杵中学として設立されました。本県でも有数の伝統と実績のある高等学校です。そして今年は、創立七十周年という記念すべき、歴史的な年を迎えています。敗戦で荒廃し、何もなくなってしまった日本をもう一度再生させるためには、武力ではなく、学問と文化の力こそが必要だということを当時の人々は痛感していました。本校の校歌の三番には、次のように歌われています。

「いざもろともに歩を揃え、文化の華の咲き香ふ 明日の日本を打ち樹てむ。」

まさに、本校の創立には、壮大な、日本の未来の再生への願いが込められているのです。

そしてまた、この西彼杵半島に高等学校を設置し、地域の子どもたちが、遠方まで出て行かなくとも、より上級の教育を地元で受けさせたいという方々の願いは、今も脈々と生き続けております。この記念すべき節目の年に、本校に入学した皆さん方は、まさに歴史の証言者となるのだと思います。今年から新調された制服は、その証明になることでしょう。

さてこの西彼杵高校は、長崎県下で最も進んだ、「学びの共同体」とよばれるアクティブ・ラーニングを中心にして学習しています。全ての生徒に確かな「学び」を保障し、生徒一人ひとりが、自分の力を伸ばすために、他者と共同して一緒に学んでいきます。二十一世紀のこれからの時代を生きていく上で、最も重要な「力」。それは自ら行動する「主体性」、他者との「共同性」、そして自立して社会に貢献していく「志」。これらを学び、身に付けることによって、一人ひとりが、未来を生きる「希望」を紡いでいくことができるのです。

皆さんがよく知っている「翼をください」という歌があります。

いま私の願い事が かなうならば  
翼がほしい  
この背中に 鳥のように 白い翼  
つけてください  
いま富とか名誉ならば いらないけど  
翼がほしい  
子供の時夢見たこと  
今も同じ 夢に見ている  
この大空に翼を広げ  
飛んでゆきたいよ  
哀しみのない自由な空へ  
翼 はためかせ ゆきたい

この詩は、簡単なことばで書かれていますが、いま新しい青春のステージに立つ皆さん方にとっては、実に重要な意味が隠されていると私は思います。

もし私に、「白い翼」があれば、自由にこの大空を飛ぶことができる。そして、自分の「夢」を自由に追いかけることができる。そのための「翼」がほしい、と作者は語っています。それはおそらく君たち若者一人ひとりがもっている願いでもあるでしょう。

私は、君たちに、その願いを強く持ち続けて欲しいと思うのです。「白い翼」とは、君たち一人ひとりが、これからの世界を生きていくことのできる、飛び回ることのできる「力」のことです。「自由」を保障する「力」のことです。「夢」とは、これから君たちが進んでいく将来のこの広い世界で、自分が大切に生きて生きる「希望」のことです。

「学ぶ」とは、まさに、その「白い翼」を君たち自身が手に入れる方法なのです。「学ぶ」ことで人は、無知や不合理から解放されていくことになります。そして、「学ぶ」ことで、人は人とつながることができます。自分の「夢」を、確かな「希望」に変えてくれるのです。そうすることによって、この広い世界、社会を「自由」に生きていくことができるようになるのです。そのためにこそ人は「学ぶ」のだといえるでしょう。

かの有名なドイツの哲学者ニーチェは、次のように言っています。

「いつか空の飛び方を知りたいと思っている者は、まず立ち上がり、歩き、走り、登り、踊ることを学ばなければならない。その過程を省略して、空を飛ぶことは決してできないのだ。」と。

自分の「翼」で、つまり自分の「力」で、自分が思うように「生きる」ためには、まず「立ち上がり、歩き、走り、踊らなければならない。」その歩き方を、走り方を、登り方を「学ば」なければならないのです。そのために「学び」があるのです。人は、自分の「翼」という「力」を手に入れるために「学ぶ」のです。本校での「学び」を確かに実現していけば、必ず君たちは、自分の夢を「希望」に変え、自由に世界を飛び回ることのできる「白い翼」を手に入れることができるのです。

そのために3つの約束をしてほしい、と思います。

第1に、学校は「学びの場」であるということです。

学校は、足りないから学ぶために、まだ不十分だからそれを満たすためにあるのです。君たちの現状を受け入れはしますが、何でも君たちを肯定するわけではありません。君たちはまだ若く、様々な可能性を秘めています。私たちは、その君たちの「可能性」を肯定します。だから君たちは、学ぶ者としての謙虚さをもたなければなりません。そのとき君たちは多くの本物と出会うことができるのです。

第2に、学校は「小さな社会」です。したがってルールとマナーが必要です。よりよい社会にするための責任を、皆が共有しています。だから君たちは場と状況を把握し、自覚して行動しなければなりません。私たちは、君たちを大きな子供としてではなく、「小さな大人」として受けとめます。そこに社会の構成員としての責任も当然生じてくるのです。

第3に、本当は「学校は楽しいところ」です。しかし、その楽しさは待っていても与えられるものではありません。自ら主体的に行動することによって創り出すものです。学習においても、行事においても、君たちにはぜひ自ら参加する積極的な姿勢を持って欲しいと思います。西彼杵高校は、君たちの個性を尊重し、見守る側に立ちます。

どの教室の窓からも、美しい角力灘の「海」が見えます。君たちの青春は、いま、ここから始まります。君たちの日々を映す「海」を毎日見続けなさい。もちろん、海は、「青く」輝く日ばかりではありません。哀しい「群青色」の日もあります。悩み苦しむ深い「鉛色」の日もあります。そして、辛くてたまらない、「暗黒色」に、激しく渦巻く怒濤の日もあるでしょう。しかし、その日々の心を海に映しながら、君たちは少しずつ「白い翼」を育てているのだということを忘れないで下さい。そのために「学び」があるのだということを。

新入生のみなさん！ 本校での三年間が、空と海の織りなす、角力灘の美しい水平線のように、若者らしい広大な夢と希望に満ちた、実り多きものであることを願って、式辞といたします。

平成二十八年四月八日

長崎県立西彼杵高等学校

校長 福田 鉄雄